

コンポスターの使い方

大きなバケツのようなプラスチック製の容器を使い、生ごみを土に接触させて土の中の微生物やミミズの働きを利用して生ごみを分解します。

台所の生ごみの他、刈草や枯葉なども堆肥にできます。容器が比較的大きいため、庭があり、生ごみが多くでる家庭や家庭菜園をやっている方に向いています。

準備するもの

- ・コンポスター容器 100～200ℓ ※ホームセンターで購入できます。
- ・水分調整剤(乾燥した土・枯葉など)
- ・発酵促進剤(酵素バクテリア・ネオ豊稷元など)または米ぬか
※久慈市役所衛生班連合会でも販売しています。
- ・スコップ



1 コンポスターを設置する

- ・水はけを良くするため、土をほぐしてから日当たりの良い場所に設置します。
- ・動物のほじくりや風などによる転倒を防ぐため、容器の周りにしっかり土をかぶせて、足で踏み固めます。

2 床を作る

- ・底に10cmくらい枯葉や土を入れ、その上に5cmくらいの乾いた土を入れます

3 生ごみを入れる

- ・生ごみの水をしっかり切り、細かくしてコンポスターに入れます。
※水分を切ることで、分解が早くなりにおいも抑えられます。
- ・生ごみを入れたら、土や枯葉を生ごみと同じ量入れます。
※生ごみと一緒に発酵促進剤を入れると分解が早くなり、においも抑えられます
- ・内部に空気が入るようにスコップ等でかくはんしましょう。
- ・これを繰り返し、いっぱいになったら2ヵ月以上放置します。

4 堆肥として使う

- ・容器を取り外し、土と混ぜておくと1ヶ月くらいで良い堆肥ができます。

- 容器は、日当たり、水はけ、風当りのよい場所へ置く
- 生ごみだけでは、嫌気性発酵になりベトついた腐植(土壌有機物)で悪臭が強いものとなります
セルロース分の多い芝の刈り屑、落ち葉、剪定小枝、雑草等の庭ごみを積極的に混入させてください
- ウジムシが発生した場合は、石灰を投入すると効果的。発酵促進剤を入れると臭いや虫が発生しづらくなる
- コンポスターを2つ用意して交互に使うと、効率よく堆肥化できる
- 堆肥が完熟してくると色は黒くなる。腐った臭いやアンモニア臭がする場合は成熟が不十分です